

中勢用水地区の農業

中勢用水地区の農業の特長は、水稻(お米)を中心に、水田で畑のように小麦、大豆などを育てたり、畑での野菜づくりなど、いろいろな作物が作られています。

① 水稻（安濃津口マン）

J A津安芸のプライベートブランド米で、農家が大切に育てた「コシヒカリ」を「安濃津口マン」という商品名で販売しています。清流安濃川の水とあたたかい土地に守られて、すくすく育てられた元気なお米です。



② お茶

三重県の北中部、鈴鹿山麓でお茶が作られるようになったのは、今から千年以上前のことです。

中でも龜山は、きれいな水とあたたかい気候であることから、古くから県内有数のお茶どころとして知られています。



③ いも（芸濃ずいき）

芸濃ずいきは、サトイモのくきの部分を大きく育てたものです。伊勢別街道から京都に運ばれたことから、京料理の食材としても使われています。平成18年には三重県から「美まし国・三重の伝統野菜」にえらばれました。



④ 花木（三重サツキ）

三重県で植木が作られるようになったのは、明治の初めごろからです。

特産品のサツキは大正時代から始まり、その後改良されて、「三重サツキ」と名前がつけられました。

三重県はサツキ類の生産量が全国の約40%もあります。

特徴として、花は中くらいの大きさで、花びらは厚く、きれいなピンク色で、冬になると、葉がきれいに紅葉する、などがあげられます。

毎年5月終わりごろから、ピンクの花がさきます。



⑤ 津市のブランド「つぶっこ」

津市の農林水産業をもっと元気にするため、ブランド品目としている13品目

（こんにゃく、自然薯（やまいも）、いちご、キャベツ、すいか、茶、梨、花しょうぶ、原木しいたけ、たけのこ、杉、小女子、あさり）です。

